

北海道建築士会道北ブロック協議会及び事業報告書

ブロック名	道北ブロック
報告者	青年委員会 道北ブロック長 北野 学
事業名	平成26年度 第2回道北ブロック協議会
開催日時	平成26年9月6日(土)
開催場所	留萌市 海のふるさと館
参加者数	22名
参加支部	旭川(3名)・名寄(3名)・宗谷(1名)・北空知(2名)・上富良野(4名)・士別(1名) 留萌(5名)・富良野(3名)
事業内容 問い合わせ先	代表者 留萌支部 大平 健二 (勤務先) 興北建設(株) TEL 0164-42-0668

事業内容

スケジュール

- 13:30～13:40 道北ブロック統一事業説明
- 13:40～14:00 佐賀家漁場に移動
- 14:00～15:00 施設見学、高橋学芸員による説明
- 15:00～15:20 海のふるさと館に移動
- 15:20～16:00 意見交換・提案まとめ
- 16:00～17:00 ブロック協議会

A. 道北ブロック協議会

青年委員会報告

全道青年委員連絡会議の資料配布、全道大会(旭川)の連絡
次回第3回協議会は富良野支部で11月29日の予定

議 事



B. 道北ブロック統一事業

地域の宝 ～留萌の巻～ 北海道遺産にふれる

この留萌は、江戸時代から昭和中期までニシンの最北の漁場（千石場所）として大きな発展をし、その歴史と文化は留萌管内の礎（いしづえ）となりました。その中で留萌市礼受町に今でも残る「佐賀番屋」は、江戸末期から明治初期にかけて建造され、平成9年に国の史跡に指定、ニシン漁撈用具は平成7年に国の重要有形民俗文化財されました。この地域を語る上で欠くことのできない「ニシン」に関連する歴史、文化、生活、遺構などは、時代の変遷とともに当時を知る者や資料も少なくなり、ニシン番屋の老朽化も著しいなど「地域の宝」を将来に語り継ぐ手段が失われつつあります。ニシン文化は、留萌地域が後世に伝えていかなければならない大切な宝物です。青年建築士として当時の番屋建物や漁撈等を見学・体験をし、現在施設周辺の整備計画もありますが、見学の感想・不満・今後の展望等を発表してほしいです。

議 事



佐賀家漁場全景



左写真中央の番屋拡大



説明をしてくれた高橋学芸員



番屋内部

約1時間学芸員から施設説明を受けたり施設を見学して、提案等をまとめました。次項は高橋学芸員に宛てた提案書です。

提 案 書

9月6日一般社団法人北海道建築士会道北ブロック協議会にて佐賀家漁場を視察し出された感想・要望について建築的提案をさせていただきます。

【PRの強化】

- ・場所がわかりづらいため建物周辺に案内看板等を設置する。(番屋まで、あと何kmなど)
- ・何かバスツアーなどの見学コースに入れてみる。
- ・一般開放の時期を延長する。
- ・体験型のアミューズメントにしPRする。

【見せ方、維持管理】

- ・建物周辺の草刈りの実施
- ・各施設へのアプローチをしやすくするために道や外構の整備
- ・当時の干場などを再現してほしい。
- ・文化財指定された物に解説書などを付けて解りやすくしてほしい。
- ・木造なので一部腐食がみられました。定期的に修繕を行い次世代まで残してほしい。

見学した感想の抜粋

- ・貴重な建築物・文化財を後世にのこしてほしい。
- ・非常に興味深く面白い建物でした。もう少しゆっくり見学したかったです。
- ・説明も解りやすく興味がわきました。もう少し時間を延長してほしかった。
- ・他の番屋も見ましたがこちらのほうが面白かったです。
- ・現代的な部分(サッシ・シャッターなど)も当時の感じを復元した方が良いと思いました。

学芸員 高橋様へ

このたびは、講和頂きまして大変有難うございます。佐賀番屋という地域の宝を通じて留萌の歴史を知ることができました。当時のニシンの利用方法など知らないことがあり大変興味深い一日となりました。今後も素晴らしい地域の宝の維持・発展を祈念しております。



ニシンを運ぶ背かご(モッコ)を体験する建築士